

教訓番外編 1 つまずき注意



1. 走ればつまずく
2. 人莫躓於山、而躓於垤（淮南子）
人は山に躓くこと莫くして、垤(ありつか)に躓く。

教訓番外編 2 土日は県外



中越、中越沖、岩手・宮城内陸の3つは土日当直明け
岩手北部、東日本大震災も山形

教訓番外編 3 夢を分析せよ



新潟県中越沖地震:「高村！また中越だ、いくぞっ！」

四川汶川大地震:外国(大陸中央部)名の震源地に
「さあ、行くか」といって空港の待ち合い
の椅子から立つ。

東日本大震災:自分の居た建物(ビル)が流される(2010)。
「何で羽田経由で札幌なんで面倒な行程？」と札幌で言われる。

まとめ

- ・ 教訓 1 県庁の居場所を作れ 教訓 2 県担当者は素人
- ・ 教訓 3 受け入れ病床を確保せよ
- ・ 教訓 4 原則県庁窓口一本
- ・ 教訓 5 行政組織の構造を知れ
- ・ 教訓 6 受けに回れ 教訓 7 受け入れは皆で
- ・ 教訓 8 被災地外にも避難所
- ・ 教訓 9 他県の調整相手は災害医療仲間を
- ・ 教訓 10 情報は5W1Hで何度も確認
- ・ 教訓 11 活動内容確認は終了まで



H23年度災害急性期対応研修、広域災害・救急医療情報システム運用操作説明会

2011. 8/4～8/5

月日	時 間	プ ロ グ ラ ム	場 所
第 1 日 目 8 月 4 日 (木)	9:30 ~ 10:00 30分	受付	災害医療センター
	10:00 ~ 10:10 10分	開会式 開会挨拶 ※厚生労働省医政局指導課 政府・厚生労働省の災害対策	外来棟4階 研修室
	10:10 ~ 10:30 20分	1) 厚生労働省の災害医療対策・DMAT運用・災害救助法について ※ 担当：厚生労働省医政局指導課 災害医療対策専門官 岩城 昌也	
	10:30 ~ 11:00 30分	2) 特別講演「災害とアパシー」 ※ 担当：防衛省航空幕僚監部 山田 憲彦	
	11:00 ~ 12:00 60分	3) 災害医療体制の現状と課題について ※ 担当：厚生労働省医政局DMAT事務局 近藤 久禎	
	12:00 ~ 12:50 50分	昼食	
	12:50 ~ 14:20 90分	「広域災害・救急医療情報システムについて」 ※ 担当：兵庫県災害医療センター 中山 伸一 / 国立病院機構西群馬病院 楠 孝司 / NTT Data	
	14:20 ~ 14:40 20分	休憩	
	14:40 ~ 16:25 110分	シミュレーション「災害時の初動における都道府県担当者の役割1」 内容 1) 災害（緊急事態）の覚知と初動 2) 災害対策本部（医療本部）の立ち上げと運用 a. 医療機関の被災状況の確認、情報共有 b. DMATの派遣要請、派遣、運用 ※ 担当：山形県立救命救急センター 森野 一真 / 山形県健康福祉部地域医療対策課 森居 俊明	
	16:25 ~ 16:35 10分	休憩	
16:35 ~ 18:20 110分	内容 c. DMATの受け入れ d. 日本赤十字社の役割 ※ 担当：山形県立救命救急センター 森野 一真 / 山形県健康福祉部地域医療対策課 森居 俊明		
18:20 ~ 18:30 10分	事務連絡		
18:30 ~	意見交換会	災害医療センター 9階 レストラン	

H23年度災害急性期対応研修、広域災害・救急医療情報システム運用操作説明会

2011. 8/4～8/5

月日	時 間	プ ロ グ ラ ム	場 所
第 2 日 8 月 5 日 (金)	8:30 ~ 9:00 30分	受付 東日本大震災DMAT都道府県調整本部における活動	災害医療センター 外来棟4階 研修室
	9:00 ~ 9:20 20分	1) 東日本大震災におけるDMAT活動 ※担当：国立病院機構災害医療センター 小井土 雄一	
	9:20 ~ 9:50 30分	2) 宮城県DMAT調整本部における活動 ※担当：国立病院機構災害医療センター 井上 潤一	
	9:50 ~ 10:20 30分	3) 岩手県DMAT調整本部における活動 ※担当：岩手医科大学 秋富 慎司	
	10:20 ~ 10:30 10分	4) 都道府県DMAT調整本部の今後の課題 ※担当：国立病院機構災害医療センター 近藤 久禎	
	10:30 ~ 10:40 10分	休憩	
	10:40 ~ 12:10 90分	シミュレーション「災害時の初動における都道府県担当者の役割2」 内容 1) 患者搬送 a. 域内搬送の調整 b. 後方（広域）搬送要請の要請の判断 2) SCUの展開と運用 3) 災害種別による相違について 4) 医療班との調整について ※ 担当：山形県立救命救急センター 森野 一真 / 山形県健康福祉部地域医療対策課 森居 俊明	
	12:10 ~ 13:00 50分	昼食	
	13:00 ~ 14:00 60分	シミュレーション「医療チームの派遣における都道府県担当者の役割」 ※担当：徳島県危機管理部危機管理政策課（防災情報担当）坂東 淳	
	14:00 ~ 14:10 10分	休憩	
14:10 ~ 15:40 90分	グループディスカッション「体制整備」 1) 地方ブロックレベルでの連携、研修会・訓練、相互応援協定について ※担当：高知県健康政策部医療政策・医師確保課長 川内 敦文 2) 情報・通信体制について ※ 担当：兵庫県災害医療センター 中山 伸一 / 徳島県危機管理部危機管理政策課（防災情報担当）坂東 淳		
15:40 ~ 15:50 10分	総合討論・アンケート記入		
15:50 ~ 16:00 10分	閉会		
16:00	解散		

平成23年度DMAT地方ブロック実働訓練の実施状況について

1 平成23年度DMAT地方ブロック実働訓練の実施状況

ブロック	幹事県(開催地)	開催日程	参加者(DMAT登録者)
北海道	北海道	2012年3月10～11日	14病院80名
東北	秋田県	2011年10月22～23日	43病院212名
関東	茨城県	中止	—
中部	三重県	2012年1月21日	35病院169名
近畿	大阪府(徳島県・兵庫県)	2011年10月29～30日	45病院215名
中国	島根県	2011年11月19～20日	24病院138名
四国	愛媛県	2012年1月28～29日	17病院80名
九州・沖縄	宮崎県	2011年11月4～5日	23病院114名
			合計 201病院 1,008名

2 各ブロックでの訓練概要

1. 北海道ブロック

ブロック名	北海道ブロック			
幹事都道府県	北海道			
目的	<p>①参集訓練 大規模災害等発生時の DMAT の参集方法を確認し習熟するため、EMIS を用いた情報伝達及び参集訓練を行う。</p> <p>②病院支援訓練 病院移転に伴う入院患者移送を DMAT として支援することで、災害等発生時に被災した病院からの患者移送に必要な安全管理と情報管理を学ぶ。また、様々なニーズに柔軟に応じることで、病院支援に必要な DMAT の活動について理解を深める。</p>			
日時	平成 24 年 3 月 10 日～11 日			
場所・会場	札幌医科大学、井上病院(旧病院)、平成会病院(新病院)			
参加機関・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・参加機関 14 機関(DMAT) ・参加人数 80 人 ・模擬患者数 76 人(全員が気管切開+人工呼吸管理の実患者) ・コントローラー数 9 人(上記参加人数に含む) 			
参加車両・航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・病院緊急車両 3 台 ・ドクターヘリ 0 台 ・消防機関救急車 0 台 ・消防機関その他車両 0 台 ・航空機、ヘリコプター 0 機 ・自衛隊救急車両 4 台 			
訓練想定	平成 24 年 3 月 10 日 7 時に札幌市を震源とする震度 6 強の地震が発生。井上病院が被災し、電源を喪失。人工呼吸管理中の 76 名の患者を平成会病院へ移送する計画が立てられた。井上病院は北海道へ支援を求め、北海道は自衛隊と北海道 DMAT に支援を要請。北海道は北海道 DMAT に対して、参集拠点を札幌医大とし、15 時までに参集するよう EMIS で派遣要請。			
実施項目	参集訓練	○	本部(調整本部)	
	現場活動(救護所)		本部(活動拠点本部)	○
	現場活動(救助現場・CSM)		本部(SCU本部)	
	病院支援	○	本部(域外拠点本部)	
	域内搬送	○	EMIS	○
	SCU		その他:MATTS による情報管理、	
	広域医療搬送機内活動		MATTS による搭乗者名簿作成	

2. 東北ブロック

ブロック名	東北ブロック			
幹事都道府県	秋田県			
目的	広域災害時の CSCA の確立を行う			
日時	平成 23 年 10 月 22 日～10 月 23 日			
場所・会場	秋田県全域：秋田県庁、秋田空港(救難隊基地、消防防災航空隊基地、旅客ターミナル)、旧秋田空港跡地、男鹿マリーナ、秋田組合総合病院、由利組合総合病院、平鹿総合病院、男鹿市立みなと病院、大館市立病院、海上保安庁巡視艇しんざん			
参加機関・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・参加機関：秋田県庁、岩手県庁、宮城県庁、福島県庁、山形県庁、新潟県庁、DMAT 指定病院 31+10 病院(秋田県内 10 病院)、大館市立病院、男鹿市立みなと病院、航空自衛隊支援集団、航空自衛隊秋田救難隊基地、航空自衛隊三沢基地、秋田県消防防災航空隊、秋田市消防本部、横手市消防本部、由利本荘市消防本部、男鹿市消防本部、大館市消防本部、厚生労働省調査ヘリ(朝日航洋)、厚生労働省 DMAT 事務局(阿南、近藤、小早川、高野、市原、宮本) ・行政 7 名、医療機関 228 名、その他機関多数 ・模擬患者数 1040 人(うち、生身傷病者 40 名、その他は巨大エマルゴ人形) ・コントローラー数 58 人(秋田県DMAT隊員、1 名は日本DMATインストラクター) 			
参加車両・航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・病院緊急車両 複数台 ・ドクターヘリ 1 台(朝日航洋、調査ヘリ) ・消防機関救急車 複数台 ・消防機関その他車両 複数台 ・航空機、ヘリコプター 5 機 (所属：秋田救難隊UH-60;2 機、航空自衛隊三沢基地CH-47;1 機、消防防災航空隊BK-117;1 機、朝日航洋 1 機) 			
訓練想定	秋田県沖で発生した M8.5 の地震により、各地で多数傷病者発生(午前 6 時 46 分発災)。			
実施項目	参集訓練	○	本部(調整本部)	○
	現場活動(救護所)	○	本部(活動拠点本部)	○
	現場活動(救助現場・CSM)		本部(SCU本部)	○
	病院支援	○	本部(域外拠点本部)	○
	域内搬送	○	EMIS	○
	SCU	○	その他：	
	広域医療搬送機内活動	○		

3. 中部ブロック

ブロック名	中部ブロック			
幹事都道府県	三重県			
目的	大規模災害が発生した際、中部ブロック各県DMATが緊密な連携を図り、被災地における緊急治療、病院支援、広域医療搬送等を迅速に行うことができるようにするため。			
日時	情報伝達・参集訓練：平成24年1月21日(土)8:30～18:00 実動訓練：平成24年1月22日(日)8:30～12:30			
場所・会場	三重大学、伊勢湾ヘリポート			
参加機関・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・参加機関 35機関(DMAT所属機関のみ) ・参加人数 169人 ・模擬患者数 108人 ・コントローラー数 約70人 			
参加車両・航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・病院緊急車両 1台 ・ドクターヘリ 0台 ・消防機関救急車 2台 ・消防機関その他車両 1台 ・航空機、ヘリコプター 2機(所属：陸上自衛隊、三重県) 			
訓練想定	東日本大震災に伴う地殻変動の影響により、1月21日(土)8時00分、三重県中部を震源とする内陸直下型地震(布引山地東縁断層帯)が発生し、三重県津市で震度6強を観測。三重県内の広範囲で震度5弱以上の揺れを観測。地震の強震動に伴い、三重県中部地方を中心に家屋倒壊、土砂崩れによる人的被害が発生したほか、道路や橋梁の損壊、ライフライン・幹線道路の寸断等の甚大な被害が発生している。			
実施項目	参集訓練	○	本部(調整本部)	○
	現場活動(救護所)		本部(活動拠点本部)	○
	現場活動(救助現場・CSM)		本部(SCU本部)	○
	病院支援	○	本部(域外拠点本部)	
	域内搬送	○	EMIS	○
	SCU	○	その他：	
	広域医療搬送機内活動	○		

4. 近畿ブロック

ブロック名	近畿ブロック
幹事都道府県	大阪府
目的	近畿地方DMAT連絡協議会設置要領第6条に基づき、近畿地方のDMAT隊員の技術の向上、連携等を図る
日時	平成23年10月30日(日) 8時30分～13時00分(徳島県小松島会場) 平成23年10月30日(日) 11時00分～17時00分(兵庫県神戸会場)
場所・会場	① 徳島県小松島会場(徳島県小松島市内) ・徳島・小松島港赤石ふ頭東地区 ・海上自衛隊補給艦、海上保安庁巡視船 ・徳島赤十字病院(災害拠点病院) ② 兵庫県神戸市内 ・神戸空港 ・神戸市立中央市民病院(災害拠点病院)
参加機関・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・ 神戸会場: 13機関(神戸市消防局、兵庫県警、陸上自衛隊第3特科部、神戸海上保安本部、兵庫県企画県民部、兵庫県災害医療センターなど) ・ 徳島会場: 7機関(徳島県医師会、日本赤十字社徳島県支部、鳴門看護専門学校 など) ・ 参加人数: 48チーム、144人(※日本DMAT隊員資格を有しない者を含む) (内訳) 神戸会場: 21チーム、104名(医師35名、看護師39名、事務調整員30名) (うちDMAT登録者: 20チーム94名) 徳島会場: 27チーム、140名(医師45名、看護師57名、業務調定員38名) (うちDMAT登録者: 25チーム121名) ・ 模擬患者数: 173人(神戸会場16名、徳島会場157名) ・ コントローラー数: 86人(神戸会場16名、徳島会場70名)
参加車両・航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・ 病院緊急車両 7台(神戸会場2台、徳島会場5台) ・ ドクターヘリ 1台(和歌山県ドクターヘリ(徳島会場)) ・ 消防機関救急車 8台(神戸会場3台、徳島会場5台) ・ 消防機関その他車両 0台 ・ 航空機、ヘリコプター 4機 (神戸会場: 海上自衛隊、海上保安庁、神戸市航空機動隊、陸上自衛隊) (徳島会場: 海上自衛隊、海上保安庁)
訓練想定	2011年10月30日 8時30分徳島県南部・北部でM8.6の震度6強の海溝型地震が発生、沿岸部では5mを超える津波が押し寄せ多数の被害が発生。徳島県から厚生労働省および各都道府県へDMAT支援要請をもとに厚生労働省および徳島県が

	ら近畿 2 府 7 県の DMAT に対して派遣要請。徳島県沿岸にて海上自衛隊ましゅう型補給艦おうみが SCU を展開しており、域外である神戸に搬送する広域医療搬送計画の実施が決定された。近隣 DMAT は 13 時の受け入れ体制完了を目標に参集、設営を行う。			
実施項目	参集訓練	○	本部(調整本部)	○
	現場活動(救護所)	○	本部(活動拠点本部)	○
	現場活動(救助現場・CSM)	○	本部(SCU本部)	○
	病院支援	○	本部(域外拠点本部)	○
	域内搬送	○	EMIS	○
	SCU	○	その他:	
	広域医療搬送機内活動	○		

5. 中国ブロック

ブロック名	中国ブロック			
幹事都道府県	島根県			
目的	島根県内で大規模地震が発生した場合に、迅速・効果的な広域医療体制が確保できるよう、中国地区5県のDMAT及び消防等の防災関係機関が合同訓練を実施し、緊密な連携強化を図ることを目的としている。			
日時	平成23年11月19日(土)8:30~16:00 平成23年11月20日(日)9:00~12:00			
場所・会場	【平成23年11月19日(土)】 災害対策本部:島根県庁講堂(松江市殿町1番地)、病院支援訓練:松江赤十字病院、島根県立中央病院、国立病院機構浜田医療センター、・SCU:出雲空港 【平成23年11月20日(日)】 ・実働訓練及び東日本大震災に係る活動状況報告:島根県立中央病院			
参加機関・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・参加機関 31機関 (DMAT24チーム(138名)、3病院(DMAT参集拠点病院)、3消防本部、島根県) ・参加人数 338人 ・模擬患者数 10人 ・コントローラー数 22人(サポート11名含む) 			
参加車両・航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・病院緊急車両 28台(DMAT参集訓練使用分も含む) ・ドクターヘリ 1台(急遽、本要請が入ったため訓練使用せず) ・消防機関救急車 0台 ・消防機関その他車両 0台 ・航空機、ヘリコプター 0機(所属) 			
訓練想定	島根県東部地区を震源とする震度6強(央道湖南側震度7)の地震が発生。各地で家屋や建築物が倒壊し、要救助者が多数発生。島根県は島根DMATを派遣要請するとともに、中国地区各県(鳥取県、岡山県、広島県、山口県)にDMAT派遣を要請。島根県庁を災害対策本部として、訓練当日に災害対策本部から災害情報を提供し、それに基づき各DMATは参集病院にて活動を行う。そして、人的被害がさらに拡大し、広域医療搬送拠点を設置する。			
実施項目	参集訓練	○	本部(調整本部)	○
	現場活動(救護所)		本部(活動拠点本部)	○
	現場活動(救助現場・GSM)		本部(SCU本部)	○
	病院支援	○	本部(域外拠点本部)	
	域内搬送	○	EMIS	○
	SCU	○	その他:	
	広域医療搬送機内活動			

6. 四国ブロック

ブロック名	四国ブロック			
幹事都道府県	愛媛県			
目的	東南海・南海地震に備えた広域医療搬送計画の検証			
日時	平成 24 年 1 月 28 日(土) 9:00~16:00			
場所・会場	松山空港、松山赤十字病院、愛媛大学医学部附属病院			
参加機関・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・参加機関 22 機関(DMAT病院:17 病院(80 名)、松山市消防局、東温市消防本部、愛媛県消防防災航空隊、航空自衛隊、松山赤十字看護専門学校) ・参加人数 83 人 ・模擬患者数 15 人 ・コントローラー数 21 人 			
参加車両・航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・病院緊急車両 0台 ・ドクターヘリ 0台 ・消防機関救急車 2台 ・消防機関その他車両 0台 ・航空機、ヘリコプター 2機(所属 航空自衛隊、県消防防災航空隊) 			
訓練想定	平成 24 年 1 月 28 日(土)午前9時に南海地震が発生し、四国全域で多数の傷病者が発生したことから、国が、松山空港を広域医療搬送拠点(SCU)として、四国内傷病者の広域医療搬送を行うことを決定し、県が設置			
実施項目	参集訓練	○	本部(調整本部)	
	現場活動(救護所)		本部(活動拠点本部)	
	現場活動(救助現場・CSM)		本部(SCU本部)	○
	病院支援	○	本部(域外拠点本部)	
	域内搬送	○	EMIS	○
	SCU	○	その他:	
	広域医療搬送機内活動	○		

7. 九州・沖縄ブロック

ブロック名	九州・沖縄ブロック			
幹事都道府県	宮崎県			
目的	この訓練は、九州沖縄地方のDMAT隊員の技術の向上、連携等を図ることを目的とする。			
日時	平成23年11月4日(金) 8時～17時 平成23年11月5日(土) 8時～12時			
場所・会場	11月4日(金) 県立宮崎病院(宮崎市) 11月5日(土) 宮崎市清武総合運動公園(宮崎市)			
参加機関・参加人数	<ul style="list-style-type: none"> ・参加機関 23機関(福岡県、長崎県、大分県、熊本県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県) ・参加人数 114人(DMATのみ) ・模擬患者数 不明(消防による手配) ・コントローラー数 12人 			
参加車両・航空機	<ul style="list-style-type: none"> ・病院緊急車両 24台 ・ドクターヘリ 0台 ・消防機関救急車 多数 ・消防機関その他車両 多数 ・航空機、ヘリコプター 1機(所属 宮崎県防災ヘリ「あおぞら」) 			
訓練想定				
実施項目	参集訓練	○	本部(調整本部)	○
	現場活動(救護所)	○	本部(活動拠点本部)	○
	現場活動(救助現場・CSM)	○	本部(SCU本部)	
	病院支援		本部(域外拠点本部)	
	域内搬送	○	EMIS	○
	SCU		その他:	
	広域医療搬送機内活動			

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金

健康安全・危機管理対策総合研究事業

健康危機・大規模災害に対する初動医療体制のあり方に関する研究

「DMAT 活動におけるロジスティックスの諸問題」に関する研究

災害医療ロジスティックス要員の充実・強化に関する検討

地方における本部付きロジスティックス要員の育成研修プログラムへの試みについて

～平成 23 年度 近畿地方災害医療ロジスティックス研修会報告～

兵庫県災害医療センター 中田正明

近畿地方災害医療ロジスティックス検討委員会

1) はじめに

東日本大震災において、DMAT 活動での大きな課題の一つとして、ロジスティックス要員の充実・強化が挙げられている。特に、本部機能を担うロジスティックス要員が不足していたことが、今回の震災において浮き彫りとなった。

本年度近畿地方では、本部付きロジスティックス要員の育成について研修プログラムを検討し、研修会を実施した。

2) 平成 23 年度 本部付きロジスティックス要員の育成研修会の詳細について

【平 23 年度 近畿地方災害医療ロジスティックス研修会】

① 開催日程：平成 23 年 3 月 10・11 日

② 開催場所：大阪府立急性期・総合医療センター

③ 研修会内容について

(目的)

本部付きロジスティックス要員の育成研修

(内容)

講義 1 「東日本大震災における通信状況と DMAT ロジステーション構想について」

講義 2 「DMAT 活動拠点本部の立ち上げについて (ディスカッション)」

講義 3 「東日本大震災における本部活動の実例について」

実習 1 「衛星電話によるインターネット環境の確保」

実習 2 「DMAT 本部ロジ要員に必要なスキルについて」

① 【記録】実習 (クロノロ・組織図・患者一覧)

② 【連絡・伝達】実習

実習 3 「活動拠点本部シミュレーション①」

【本部立ち上げ/通信確保/資機材確保・設置/初動情報収集】

実習 4 「活動拠点本部シミュレーション②」

【参集 DMAT 受付/DMAT を病院支援へ役割分担/被災地内拠点病より情報収集/応援 DMAT の派遣/情報収集 (その他の医療ニーズ)】

④ 研修会受講対象者について

日本 DMAT 隊員 業務調整員

*近畿地方 (滋賀県・京都府・大阪府・兵庫県・奈良県・和歌山県) 所属の日本 DMAT 隊員養成施設へ受講生を募集。

⑤ 受講者について

合計 41 名

1. 都道府県別

【滋賀県】 5 名 【京都府】 3 名 【大阪府】 16 名 【兵庫県】 7 名 【和歌山県】 7 名
【奈良県】 3 名

2. 職種別

事務職 10 名

コメディカル 31 名

【薬剤師】 5 名 【診療放射線技師】 14 名 【臨床検査技師】 2 名 【臨床工学技士】 6 名 【理学療法士】 1 名 【作業療法士】 1 名 【歯科技工士】 1 名 【管理栄養士】 1 名

3) 平成 23 年度 本部付きロジスティクス要員の育成研修会の評価について

(アンケート結果) 回収率 98% (40 名 / 41 名)

1. 近畿地方災害医療ロジスティクス研修会の受講の意思について

【自ら志願して参加】 30 名 (75%)

【業務命令にて参加】 9 名 (23%)

2. 講義の内容は理解できたか?

●講義 1 「東日本大震災における通信状況と DMAT ロジステーション構想について」

【理解できた】 20 名 (50%) 【だいたい理解できた】 17 名 (43%)

【少し難しかった】 2 名 (5%)

●講義 2 「DMAT 活動拠点本部の立ち上げについて (ディスカッション)」

【理解できた】 20 名 (50%) 【だいたい理解できた】 13 名 (32%)

【少し難しかった】 1 名 (2%) 【難しかった】 1 名 (2%)

●講義 3 「東日本大震災における本部活動の実例について」

【理解できた】 19 名 (48%) 【だいたい理解できた】 13 名 (32%)

【少し難しかった】 2 名 (5%)

3. 実習の内容は今後現場で活かそうか？

●実習1「衛星電話によるインターネット環境の確保」

【学んだ事は十分使える】12名(30%) 【もう少し経験が必要】20名(50%)

【まだ活かす自信がない】6名(15%)

●実習2「DMAT本部ロジ要員に必要なスキルについて」

① 記録実習(クロノロ・組織図・患者一覧)

【学んだ事は十分使える】15名(38%) 【もう少し経験が必要】23名(58%)

【まだ活かす自信がない】1名(2%)

② 連絡・伝達 実習

【学んだ事は十分使える】15名(38%) 【もう少し経験が必要】23名(58%)

【まだ活かす自信がない】1名(2%)

●実習3・4「活動拠点本部シミュレーション」

【学んだ事は十分使える】15名(38%) 【もう少し経験が必要】18名(45%)

【まだ活かす自信がない】4名(10%)

4. 本部付きロジスティクス要員の育成研修会は必要か？

【必要】40名(100%)

●研修会の開催形式について

【DMAT養成研修に含める】2名(5%) 【地方での開催】10名(25%)

【全国的な開催】10名(25%) 【DMAT技能維持に含める】7名(18%)

●研修会の開催頻度について

【1回/年】5名(13%) 【2回/年】25名(63%)

【3回以上/年】6名(15%)

●研修会の開催期間について

【1日】12名(30%) 【2日】24名(60%)

5. 受講者総評

- クロノロの記録の仕方等、標準化、マニュアル化されていない部分を進めていけたらと思う。各役割に徹するとともに、現在の状況を把握できるレイアウトや工夫が重要だと感じた。
- 非常にわかりやすく、今後の参考となる研修会だった。DMAT活動においてロジの本部の役割がいかに重要か理解できた。知識、技術を忘れぬよう、今後もこのような研修会が必要である。
- 情報の共有が困難であったと感じた。やはり、各々積極的に情報を取得する必要がある。
- どの業務でもそうであるが、普段から慣れてないとできない。こういった研修を最低年2回程度して欲しいと思う。
- ロジは何でもできないといけなけれど、それぞれ得意分野があるから何が得意かを

確認して役割分担することが必要。

- 今まで統括 DMAT 研修を受講した方でなければ、本部の役割を理解することは難しかったと思うが、この研修を受け、本部での役割について少し理解を深めることができた。また本部で実際動く立場ではなくても、本部機能をきちんと理解しているかどうかでは、DMAT 活動において大きく動きが違うと感じた。
- DMAT 全体が効率的・効果的に医療救護活動を実施するのに、本部活動が非常に重要な役割を果たすことがよくわかった。

【今後の研修で必要とする内容】

- インターネット環境の確保の部分でトラブルのことが多かったので、今後はその辺の研修や対応方法の習得が必要。
- 今後もネット環境の確保の仕方を学びたい。色々なメーカーの衛星電話があるので、各メーカーの衛星電話を1回は経験したい。
- 今後も頻繁なトレーニングが必要と思うので、基礎編から応用編まで頭と体をつかった研修が必要。
- 今後も実動研修中心に研修が必要。
- もう少しシーンを細かく分けて、シミュレーション実習を行った後に、全体の実践を仮想した実習も良いと感じた。
- 多くのログが今回の研修を定期的にくり返し行うべき。
- トラブル対処法を学ぶ機会があれば良い。例えば、電話・ネットが繋がらない状況や、プリンターが接続できない場合の対処方法等の研修。
- ある程度、インストの誘導があつてこそできる訓練。ロジリーダーはインスト、サブリーダーは受講生がしてもよいかもしれない。

4) 考察

今回、本部付きロジスティクス要員の育成研修プログラムを検討していく段階で、いかに実践をイメージ出来るような内容にすることに重点を置き検討を重ねた。本部付きのロジスティクスに必要なスキルの部分においても、受講者に必要なスキルが明確になるようなプログラムの内容を検討した。

受講者のアンケートより、本部活動についてのロジスティクス要員の研修会の必要性を実感すると共に、実践をイメージ出来るような内容にすることにより、数少ない実践経験を積むことができ、多くのロジスティクス要員がこの経験を必要としていることも感じる事ができた。これは東日本大震災という実践を経験し、ロジスティクス要員の本部活動に対する興味と意識が高くなった事も考えられる。

今後も継続した本部活動に関する研修会が必要であることが確認できたが、内容としては更に細かく具体的な知識と業務の習得を望んでいることも感じた。

4) まとめ

今回、DMAT ロジスティクス活動の大きな課題であった本部付きのロジスティクス要員の育成研修会を実施することができた。

より実践に近い内容を提供することができ、このような経験がロジスティクス要員に必要であることも確認できた。更に、多くのロジスティクス要員が本部活動を理解することによって、DMAT 全体の活動の理解に繋がっていることも感じた。

今後、近畿地方においては引き続き本部付きロジスティクス要員の育成を中心とした研修会を開催していく予定である。そしてこのような研修会を全国的に展開していくことも必要と考える。併せて、これらの本部のロジスティクス要員のリーダーとなる人材の育成の研修会を開催していくことも必要であると感じた。このような研修会開催は、本部のロジスティクス要員の更なる充実と強化に繋がり、重要な研修会であると考え開催は急務である。

平成23年度DMATインストラクター研修会カリキュラム案

	開始時刻	終了時刻	時間	講義名	担当※	内容等
1日目						
講義	13:00	13:40	0:40	東日本大震災におけるDMAT活動とその課題、日本DMAT検討委員会での検討結果について	小井土	
講義	13:40	14:00	0:20	DMATにおける戦略・戦術について	近藤	
	14:00	14:10	0:10	休憩		
机上演習	14:10	17:10	3:00	机上演習「DMATにおける各本部の役割」 0:45 ①DMAT活動拠点本部 0:45 ②DMAT・SCU本部 0:45 ③DMAT都道府県調整本部 0:45 ④DMAT域外拠点本部	関 井原、小早川 近藤 北川	統括研修「広域災害・机上シ」 (担当:近藤)をもとに事務局1 ~10人/グループでの机上演 全体での進行・解説を実施。
	17:10	17:20	0:10	休憩		
講義	17:20	19:00	1:40	東日本大震災における事例からの教訓 事例① 事例② 事例③ 事例④	近藤 北川 中山 阿南	東日本大震災における各講 告。ひとりあたり25分。
2日目						
実習	9:30	12:30		実習「本部運営」	小早川、阿南	宮崎訓練型の実習。役割を入 ル実施。複数の拠点本部。事

資器材・物資の確保にかかる調整業務

必要な資器材・物資	調整開始時期	確保調整先の優先順位	備考
酸素ボンベ	DMAT 活動開始と共に調整開始。各チームの携行では不足が明白であるため。	①自治体の協定 ②業界団体の協力	
医療機器	DMAT 活動開始と共に調整開始。各チームの携行では不足が明白であるため。	①内閣府の備蓄 ②自治体の備蓄 ③業界団体の協力	
医薬品・消耗品	基本的に各チームの携行による自己完結。不足が予測されてから調整開始	①病院の備蓄 ②自治体の備蓄・協定 ③業界団体の協力	各病院での医薬品の備蓄を調査する必要あり
食料・生活資器材	基本的に各チームの携行による自己完結。不足が予測されてから調整開始	①ロジスティックチームによる現地調整 ②日本赤十字社の協力 ③自衛隊の協力	
電源		①ロジスティックチームによる現地調整 ②自衛隊の協力	自衛隊基地・民間空港以外の広域医療搬送拠点では電源確保が必要な場合想定
燃料		①現地での医療チームへの優先給油所を確認 ②自治体の協定 ③自衛隊の協力	今後組織的な病院への燃料共有についてはさらなる検討が必要

災害急性期医療支援におけるロジスティクスの充実・強化

NHO 西群馬病院 楠 孝司

NHO 災害医療センター 市原正行 近藤久禎 小井土雄一

平成 23 年度厚生労働科学研究費補助金（健康安全・危機管理対策総合研究事業）自然災害による広域災害時における効果的な初動期医療の確保及び改善に関する研究班

東日本大震災を経験し、厚生労働省では「災害医療のあり方に関する検討会」を開催し報告がなされた。報告では DMAT をはじめとする急性期医療チームの派遣活動についての課題があげられた。その中で、ロジスティクスに関する項目は下記のとおりである。

○ロジスティクス関連の課題

- 48 時間以上の活動により DMAT の物資が不足した
- 通信が困難であったチームや、EMIS への入力を行うためのインターネット接続が不可能であったチームがあった
- 多数の DMAT が被災地に入ったことにより、DMAT 事務局や DMAT 都道府県調整本部等における業務量が膨大となった
- 被災地内での医療ニーズの把握が困難であった
- 空路参集では、DMAT の生活資材等の携行が困難であった

○今後の方針

- 衛星携帯を含めた複数の通信手段を保有、インターネットに接続して EMIS に情報を入力できる環境を整備
- 大規模災害時に、DMAT 事務局及び DMAT 都道府県調整本部等へ DMAT 保有医療機関が、統括 DMAT 登録者やサポート要員を積極的に派遣
- 統括 DMAT 登録者をサポートするようなロジスティック担当者や、後方支援を専門とするロジスティック担当者からなる DMAT ロジスティックチーム（仮称）を養成
- 都道府県等は、空路参集した DMAT に必要な物資の提供や移動手段の確保を行う体制を整備することが望ましい

I ロジスティクス拠点

これらの課題は、従前より課題として認識し解決策を検討していた事項であり、研究班においても DMAT の自己完結をサポートする体制として、ロジスティクス拠点構想の可能性について平成 21 年度より検討を行ってきた。

DMAT の携行品は、限られた医薬品、医療資機材、医療機器及び 2～3 日程度の非常食、毛布・寝袋、衛星携帯電話等の通信機器などである。車両での派遣であれば、ある程度の